

# 第14回全国障害者スポーツ大会「長崎がんばらんば大会」 大会報告書

## 写真で振り返る「長崎がんばらんば大会」

### ～Memory～

#### はじめに

全国障害者スポーツ大会は、障がいのある選手が競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がいのある方の社会参加の推進を図ることを目的とした障がい者スポーツの全国的な祭典です。

大会は、「君の夢 はばたけ今 ながさきから」を大会のスローガンに、11月1日～3日までの3日間の会期で開催され、全国から47都道府県と20政令指定都市の選手団約5,500人が参加、個人競技6競技、団体競技7競技の13競技及びオープン競技が実施されました。また、手話、要約筆記を初めとする情報支援や選手団のお世話など、約5千人の市民ボランティアが大会を支えてくれました。

札幌市は、個人競技6競技と団体競技2競技に選手、役員を合せて89名の選手団を構成し、5泊6日の日程で参加しました。

この報告書は、多くの人々に夢と感動を与えてくれた札幌市選手団の競技風景や期間中の動向等を写真を中心に紹介し、「長崎がんばらんば大会」を振り返ります。

そして、報告書に掲載した札幌市選手団の活躍や雄姿、笑顔等を通して、大会参加が叶わなかった障がい者はもとより、ご家族、友人、職場の同僚、各関係団体など、多くの皆さんが障がい者スポーツへの理解を深められ、今後の普及、振興の一助になれば幸いです。

下の写真は、帰路の福岡空港に向かう途中、昼食会場として立寄った「福岡観光会館はかた」前での集合写真です。大会期間中の緊張感から解放され、まもなく、故郷札幌の家族のもとに帰れる喜びでしょうか、やっと皆さん和やかな表情になりました。



11月4日「福岡市福岡観光会館 はかた」前にて

## 《札幌市選手団の主な日程》

- 10月30日 札幌市役所で結団式後、新千歳空港から東京で乗り継ぎをして長崎大村空港へ向け出発（到着21時）
- 10月31日 競技別に公式練習
- 11月 1日 午前 開会式  
午後 各競技場で競技開始
- 11月 2日 各競技場で競技
- 11月 3日 午前 各競技場で競技  
午後 閉会式
- 11月 4日 各宿舎からバス2台にて福岡空港に向けて出発  
福岡空港から新千歳空港へ向け出発（到着17時）  
バス3台にて札幌市役所へ向け出発（到着18時）  
札幌市役所で解団式  
解散



## 《 宿 舎 》

- 長崎宿舎 「陸上」「水泳」「ボウリング」「フライングディスク」
- 佐世保宿舎 「卓球」「アーチェリー」
- 諫早宿舎 「男子聴覚バレー」
- 島原宿舎 「知的サッカー」

## 《結団式》

札幌市の村山障がい保健福祉担当局長から、「これまでの練習の成果を十分に発揮するとともに、全国の選手との交流を深め、沢山の思い出をつくってほしい」との挨拶があり、真剣に聞き入る選手団。



札幌市障がい者スポーツ協会の浅香博文会長を団長とする総勢89名の選手団は、札幌市役所で結団式に臨み、それぞれが目標達成への決意を新たにしました。



声高らかに選手宣誓をする湯上英貴選手 新田のんの選手



村山障がい保健福祉担当局長から浅香団長へ団旗の授与



長崎県職員との対面式「お世話になります」…長崎宿舎にて



《 皇太子さまをお招きした開会式 》

皇太子さまが「大会スローガンにふさわしく、皆さんの夢が、大きくはばたく大会になることを願います」とお言葉を述べられました。



《 炬火 》

炬火とは、オリンピックの聖火に当たるもので、大会のシンボルで、開会式において炬火台に点火し、選手の健闘を祈ります。



高校、特別支援学校の生徒約50人の歓迎の思いを込めた和太鼓

# 開会式



開会式のアトラクション

## 《役員激励訪問》

長崎宿舎にて。  
村山担当局長、千葉英守北海道議会議員、浅香団長、小林・奈須野副団長が翌日からの競技開始を前にして、激励にお越しになりました。



## 《公式練習》

開幕を翌日に控えた選手は、各競技場で公式練習に参加し、本番へ向けて最後の調整に汗を流しました。



## 獲得メダル

陸上			水泳			卓球			アーチェリー			ボウリング			フライングディスク		
金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅	金	銀	銅
5	6	3	1	5	6	1	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1

サッカー			バレーボール		
金	銀	銅	金	銀	銅
1	0	0	0	0	0

個人	金メダル		7個	合計	団体	サッカー		聴覚男子バレーボール	合計	34個
	銀メダル		14個			優勝		一回戦敗退		
	銅メダル		12個							

個人、団体の詳細は、スポーツ協会だより第33号をご覧ください。  
札幌市選手団は、個人・団体合わせて金メダル8個、銀メダル14個、銅メダル12個 計34個のメダルを獲得しました。

みなさん、おめでとう！！



# 陸上



左から湯上選手、伊藤選手、佐藤選手、岸川選手  
 ≪ 4×100mリレー ≫  
 僅差で2位に入選するも、1位入選の埼玉県チームが失格となり  
 繰り上げ金メダル獲得。最後まで諦めなかった4選手に拍手喝  
 采！



松田選手 旗手を務めた最年長選手の立幅跳  
 銀メダル獲得



花田選手  
 ジャベリックスロー



幅岸選手 800m



水口選手 ソフトボール投



新田選手 1500m



左から佐藤選手、湯上選手、志子田選手、伊藤選手、  
 岸川選手、佐藤明日美選手、佐々木選手

# 水泳



広井 選手  
 最年少選手のトビウオの泳ぎで金・  
 銀メダル獲得し満面の笑み



左から水泳榊原選手、太田選手、大川選手



左から2番目 本堂選手

## 卓球



右 園田選手



中央 日下選手



左 渡辺選手



右 中島選手



右 延山選手

### 《卓球選手の皆さん》

メダル獲得記念に大会公式マスコットキャラクターたちと写真におさまる選手 おめでとうございます

## アーチェリー

清水選手  
今年アーチェリーを始めたばかりの期待の新人堂々の銅メダル獲得！



## フライングディスク



《大会会場》  
強風の中苦戦する選手達

## ボウリング



右から、千葉コーチ、佐藤選手、辻コーチ、玉置選手



## 男子知的サッカー



強豪東京都を撃破し、悲願の優勝を飾ったサッカーチーム



## 聴覚男子バレー



### 《 気合の入る選手達 》

1回戦で地元長崎県と対戦し、アウェーの中でも、はつらつとプレーするも敗退 来年に期待しましょう

## 集合写真

### 《 陸上 》



### 《 水泳 》



### 《 アーチERY 》



### 《 フライングディスク 》



### 《 ボウリング 》



### 《 男子知的サッカー 》



### 《 聴覚男子バレー 》



## つかの間の憩いの時

大浦天主堂



グラバー庭園



サポートボランティアと交流を深める選手



大浦湾



競技待ちのリラックスタイム



《がんばらんば広場》  
大会期間中、県立総合運動公園の芝生広場におよそ100店舗が並び、障がいのある方々が作った製品の販売や長崎県の魅力ある“食”や“特産品”等の販売、特設ステージでの発表があり、全国から訪れた選手団や観客を心温かく迎えてくれました。選手は競技の合間を縫って楽しいひと時を過ごしていました。



## ホテルでの食事

左から、水泳高橋コーチ、彦坂コーチ、広井選手



左から、水泳石井選手、千葉コーチ、小泉コーチ



左から、陸上川上コーチ、新田選手、水口選手



全国大会初出場の2人 左から、水泳太田選手、榎原選手



陸上 花田選手

## 閉会式

最終日の3日、諫早市の県立総合運動公園陸上競技場で閉会式を行い“交流、感動、挑戦”をテーマにしたスポーツの祭典の全日程を終了しました。

高円宮妃久子さまをお迎えした閉会式は、約5300人の選手団をはじめ、関係者や観客ら約1万5200人が参加し、47都道府県と20政令指定都市の選手団が競技場内に整列しました。

久子さまが「皆さんが見せてくださった笑顔とがんばらんばの気持ちは、遠く離れた東北の被災者の方々にも、きっと届いたことと思う」とお言葉を述べられました。

また、来年の開催地となる和歌山県に大会旗を引き継ぎ、祭典のシンボルである炬火（きょか）を納火しました。



### 《さだまさしさんのライブ》

ファイナルステージは、長崎県出身のシンガー・ソングライター・小説家のさだまさしさんのライブで会場が盛り上がり、大会を締めくくりました

閉会式後の退場では、長崎県選手団が、出口付近に並んで各地の選手団を送り出し、選手達がハイタッチして健闘をたたえ合い、来年の紀の国わかやま大会での再会を誓い合いました。



## 長崎県職員とサポートボランティアとのお別れ式



県職員、ボランティアの皆さん大変お世話になりました。



ボランティア代表の「まず、ハンカチを用意してください」から始まった挨拶。大会を通して感動したことなどを話し、自ら涙ぐむ場面も



ホテル前にて



「期間中、早朝から夜遅くまで、お世話になった長崎宿舍担当の県職員とサポートボランティアの学生さん」



### 《 帰 路 》

屋食会場の「はかた」にて  
今年の選手団は4つの宿舍に分散し、一堂に会するのは帰路に就いたこの時だけ

博多ラーメンと鯛めしで腹ごしらえ

## 解団式



解団式にのぞむ選手、役員



選手団をねぎらう村山障がい保健福祉担当局長



帰札の報告をする浅香団長



成績報告をする高橋副団長



右から、村山障がい保健福祉担当局長、  
嶋内障がい保健福祉担当部長、長谷川障  
がい福祉課長



## ススポから一言

札幌市選手団の皆さん本当にお疲れ様でした。

特に、大会期間中、屋外競技は雨の日や気温も札幌並みの肌寒い日もあり、選手の皆さんは大変だったでしょう。また、夜遅くの長崎入りなど、全てがベストコンディションとは言えない中、選手全員が札幌市の代表として誇りを持って精一杯プレーしたことをご報告いたします。

来年は、平成27年10月24日～26日の3日間、和歌山県（紀の国わかやま大会）において開催されます。

紙面スペースの関係で、全ての選手の皆さんを掲載できなかったことをご了承ください。

この報告書は、札幌市障がい者スポーツ協会のホームページにアップしますので、掲載した写真は鮮明なカラーで閲覧することができます。

アップは、1月中旬頃を予定しております。

最後に、報告書の製作にあたり競技や選手の指導等の合間など、何かとご多忙の中、沢山の写真撮影にご協力いただいた役員の皆様と、大会を振り返って感想をお寄せいただいた選手、役員の皆様から感謝とお礼を申し上げます。



# 長崎がんばらんば大会に出場して

## 陸上競技

知的陸上競技選手 湯上英貴

今年の長崎がんばらんば大会で陸上競技に出場し、競技はもちろん地元の人とも交流をして楽しい時間でした。

競技は、50mと200mと400mリレーに出場してメダルを取れた競技もありましたが、課題の残る大会になってしまったので、自分の課題を練習で直してまた全国大会に出場したいと思います。

メンバーやコーチの皆様、お世話になった方々、6日間本当にありがとうございました。



知的陸上競技コーチ 工藤檀子

初めて全国大会に参加させていただきました。大きな競技場を埋め尽くす選手やスタッフ、それぞれが抱く目標や想いに圧倒されながら大会は始まりました。札幌市陸上チームの選手たちはいつもお互いに声を掛け合い、励まし合い、応援合っていました。個人競技ですが、チーム力の強さを感じさせてくれました。その中でこそ、どの選手も自信を持ち納得のいく走りや次につながる走りのできたのではないかと思います。

スタートまでの緊張感、ベストが出た時の喜び、思うような走りが出来なかった悔しさも選手のすぐ傍でスタッフの皆さんと共に感じる事が出来たことを本当に嬉しく思います。

このような機会をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

身体陸上競技選手 新田のんの

初めての全国大会、とても楽しく参加させて頂きました。グラバー園でハートの石を探したり、皆で写真を撮ったりお土産を買ったりと、大会前の時間も楽しかったです。

大会当日の開会式の声や音楽に包み込まれているような雰囲気が素敵でした。ああ、いよいよ大会が始まるのだというわくわくと、緊張が更になりました。

また、初めて雨の中でトラックを走ったのですが、晴れている時の路面とは違い少しタイヤが滑る中でのレースは戸惑いましたが、良い経験をさせて頂きました。

大会を通じて知り合った選手やコーチ、ボランティアの皆さんありがとうございました。



知的卓球競技選手 中嶋花恋

私は、10月30日～11月4日まで長崎がんばらんば大会に出場しました。

最初は、大会の方々ときちんとコミュニケーションができるかすごく不安でした。でも、皆さんが優しく話しかけて下さったのですごく嬉しかったです。

卓球では、茨城の人と福岡市の人と戦って、すごく「強いなあ」と思いました。

でも、大会では負けてしまったけど、友達になれたので良かったです。

ホテルでは、誰と一緒にいるかすごく不安でした。でも、一緒にいる部屋で良かったと思います。これからも、学校生活頑張ります。



## 卓球競技

身体卓球競技選手 園田通子

主治医から職場復帰は無理ですと説明を受け、ドン底に落ちたような入退院の時を過ごしていました。両上肢（左手廃用）障害。その上不注意から右手首2カ所骨折…まだ完治していない。卓球人生終わりと思っていた。

今回第14回全国障害者スポーツ大会に参加。開会式では、スタッフが用意して下さったスズランの花を手に行進する私がいきました。

まさかこのようなドラマが待っていたなんて…という坂を登っていました。

感動のひとつです。表彰式では卓球で対戦した方々と住所の交換があり、新しい友が出来充実した大会となりました。



# 長崎がんばらんば大会に出場して

## 水泳競技



身体水泳競技選手 広井 翔

僕は正直水泳をやめたいと思っていました。でも、そんな時親に「10年も水泳やっているんだから国体目指して出られても、出られなくてもあと1年頑張りなさい。」と言われて知ったのが、全国障害者スポーツ大会の存在でした。大会の規模と泳ぐのが早い人が大勢いることを聞いて自分に出場する自信もありませんでしたが、出場して全国大会のレベルの高さを知り、メダルも得ることができ、少しの時間色々な方々と交流ができ、水泳を改めて続けるかを考える機会にもなりとても有意義で自分の良い経験になりました。



知的水泳競技選手 大川 美麗

私は、長崎がんばらんば大会を楽しみにしていました。11月1日は、自由形50mにて、33秒のベストタイムと、組の中で2位を取ることが出来て嬉しかったです。応援では、とても盛り上がりだったので嬉しかったです。観光では、グラバー園に行って、コイのエサをあげたり、カメを見る事が出来て嬉しかったです。初めて全国大会に出場して、良い結果を残すことが出来たので嬉しいです。



身体水泳競技選手 榎原美津代

障がい者水泳大会（すずらんピック2014）出場募集の広報記事が、私の長崎大会参加の始まりです。全国大会予選会とは知らずに「楽しかった」出場の思いが、まさに青天の霹靂、思いも寄らぬ全国大会出場決定の報をもたらしました。私にとっては、日々健康管理の一端が水泳です。本年早々、故あって身障者になった新参者への大きなプレゼントでした。それからは、大会の重みも知らずに、旅行気分の軽いので捉え参加したところが、皇太子殿下下拝謁のもとでの開会式、ボランティア、大きな声援、そして、参加に至るまでの全てを心身共に支えて頂いた仲間と協会関係者に心から感謝します。機会があれば、何事にもチャレンジしていきます。有難うございました。



## アーチェリー競技

身体アーチェリー競技選手 清水晶子

国体のお話を伺ったのは5月。アーチェリーを始めたのが4月で「とんでもない」とお話ししたら「まだ半年あるから」との返事。練習はしました。コーチも休日にもかかわらず熱心に指導して下さいました。そして、いざ長崎へ。

試合前日の練習時は土砂降り、試合当日の午後も雨、試合の最後はレストの不具合を発見。急いで直してもらい、思いがけず銅メダルを頂きました。国体という目標が私を練習に駆り立ててくれました。今後も精進してまいります。

大会での県職員、学生等大勢の方の協力とよき出会いに心から感謝します。



## ボウリング競技



知的ボウリング競技コーチ 辻 竜也

平成26年10月30日～4日まで行われた、長崎がんばらんば大会に札幌市選手団のボウリングコーチとして参加させていただきました。

ボウリングの結果としては、5位とのことで惜しくもメダルは取れませんでした。選手の頑張る姿が見られ、とても良かったです。また、長崎県へは初めてのことで、北海道とは違った文化や食事を楽しむことができました。

最後に、札幌市障がい者スポーツ協会の方、長崎県のボランティアのスタッフの方々に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。



## フライングディスク競技



知的フライングディスク競技コーチ 伊藤 彩

会場が屋外で、しかも生憎の雨の中の競技となり、出場する2人の選手は少し緊張した様子で、自分の順番になるまでテント内で待機していました。また、競技前の練習では思うような結果にならず不安そうでした。でも、本番では練習の時より多くディスクが入ったり、距離も飛んでいました。

競技後は、二人とも満足のいく結果だったのか笑顔も見え、他の選手の応援に行くなど、大会を楽しんでいました。



# 長崎がんばらんば大会に出場して

## サッカー競技



知的サッカー競技監督 宮本 勇太

今大会では、結果全国優勝を成し遂げたのは大変うれしく思っております。私達のサッカーチームは、札幌NFCが主体となり、強いチームではなく、まずは「与えられた環境に対して感謝する気持ちがある選手」を選出しています。練習では何度でもチャレンジしようと思う精神とチーム同士のコミュニケーションを図るため選手間のミーティングを厳しく取り入れ指導に関わりました。結果、どんな状況でも「自分たちのサッカー」を貫き、追い込まれた時にはチームが輪になり話をするところまでに成長してくれました。

決勝戦の東京都代表では、日本代表監督率いる代表選手8名が出場していましたが、北国のサッカーで走り抜くことが出来、選手たちは本当によくやってくれたと私自身感謝しております。

知的サッカー競技コーチ 後藤 大輔

長崎がんばらんば大会の知的サッカー競技は島原市で行われました。大会中は雨の時間帯もありましたが、まずまずのコンディションの中で試合をすることができました。札幌市は初戦の沖縄県を6-0で、続く準決勝では岐阜県を3-0で退け、3年ぶりに決勝戦へ進みました。

決勝戦は、この大会の5連覇を目論む東京都で、札幌市は過去に5度対戦して一度も勝ったことがありませんでした。試合は終始東京都ペースでしたが、少ないチャンスをものしつ、猛攻を好守でしのぎ切って2-0で勝利し、札幌市が初の全国制覇を成し遂げました。これまで多くの関係者のみなさんに支えていただいたおかげと感謝しております。御支援本当にありがとうございます。



## バレーボール競技



聴覚男子バレーボール競技監督 北川 孝博

昨年度の東京大会から1年。6月の東北予選大会でV2を果たし、あの長崎の地で代表の名に恥じないようコートで存分に躍動することを誓って臨みました。

対戦した開催地の長崎県を相手に、地元ならではの歓声の中で日頃の練習で鍛えた光るプレーを随所に発揮しました。時には我々の熱心なファイトあふれるプレーに称賛の拍手もいただいたほどです。健闘むなしく、試合ペースを引き込むことができぬままセット終了のボールがコートに落ちましたが、最後まで諦めずひたむきに粘りを見せることができ、決して悔いはありません。

今大会を振り返り、この経験や悔しさを糧に今後もバレーボールを楽しみながら精進していきます。大会出場に際して支えて頂いたすべての方々に感謝し、また新たな目標を胸に練習に励んでまいります。

## 介助員

札幌市障がい福祉課職員 品田 弓枝

介助員として参加させていただいた6日間の経験は、本当に貴重なものとなりました。

開会式では、会場の声援や長崎県のおもてなしの雰囲気感動するとともに、札幌市選手団として大会に参加できたことを誇りに思いました。

また、長旅で疲れている中、身体面と精神面をコントロールして本番に挑み、日頃の練習の成果を発揮しようと頑張る選手の方々の姿に勇気づけられただけでなく、大会を通して、スポーツの力や素晴らしさを改めて実感することが出来ました。選手、役員、長崎県の関係者の皆様など、大会期間中に得ることができた素敵な出逢いに感謝しています。本当にありがとうございました。これからも選手の皆様のことを応援しています。



























